

2011年2月13日

2011年1月 359号

今回は、ドイツでの介護での人材不足が話題になっていますが、正に日本でも同様の問題があると思いました。社会の高齢化がいずれの先進国より速いスピードで進んでいる日本では今後、介護の担い手不足については、むしろドイツ以上に深刻な問題となるのではないかと懸念します。ドイツのみならず、日本においても介護の現場で働く人の労働条件を改善することが求められていることを痛感します。また、日本ではインドネシアなどの海外からの人材の受入をする際に条件を緩和する必要がありそうです。

私にとって、興味深かったのは、兵役の代わりに福祉施設での奉仕作業があるドイツでは、今回のテーマが今後の兵役の中止（実質は廃止）との関連でレポートされていたことでした。これに関しては、日本では兵役が存在しませんので、全く状況が異なると思いました。

K. K.

2011年3月26日

2011年2月 360号

今回話題になっているマインツ市の財政危機は、まさに日本の自治体が直面している問題でもあります。この課題を聞きながら、2007年に財政破綻し、財政再建団体となった北海道の夕張市を思い出しました。そこまでひどくはないにしても、マインツ市のみならず、ドイツの他の自治体においても似た状況にあるのではないかと想像します。実際に、日本では、夕張市ほどひどくはないにしても、同じような財政状況にある自治体は多いようです。

カーニバルの際にライン河畔で設営したテント小屋ですが、将来ここでマインツの市議会を開催することが全くの冗談とも言えないところがぞっとします。カーニバルと言えば、20年以上前にデュッセルドルフに滞在した4年間に4回、パレードを見学に行きましたが、普段、おとなしくしているドイツ人が派手な衣装を着て大騒ぎする光景を見てとても驚いたことを思い出します。

さて、日本では現在、地震、津波そして原発事故と発生し、大変な危機にあります（3月11日の地震当日は、私も会社から徒歩と自転車で3時間以上かけて帰宅しました。会社では、棚から多くのものが落下し、翌週の片付けが大変でした）。書斎では、被害はなかったでしょうか？

私としては、現在、義捐金と節電くらいでしか協力できません。いつもはゆっくり過ぎて欲しいと思っている時間ですが、現在は時間が速く過ぎてこの危機からできるだけ早く脱したいと思っています。

K. K.

2011年4月12日

2011年3月 361号

今回話題になっているチェコ共和国の旧ズデーテン地方の歴史につきましては、以前にドイツと旧チェコスロバキアとの間で時の政治に左右された歴史があることはおぼろげながら聞いたことがありましたが、今回はより知識を深められたと思います。

今回の課題で興味深かったのは、若い歴史学者が若いボランティアと共にかつてのドイツ領であった旧ズデーテン地方の自分達の住んでいる村について資料を集め、研究し始めたことですが、やはり過去を引きずっていない若い人だからこそのような研究が可能となったのでしょうか。当然、彼らはドイツとチェコの過去の苦い歴史に直面することになりますが、居酒屋での発表会では活発な議論が行われたことは意義の深いことだったと思います。

ところで、私がドイツ語を学び始めたころ（約40年前）は、現在のチェコとスロバキアが分離する前のチェコスロバキアでしたが、この語は発音はできてもスペルが難しく正しく書くことができませんでした。今回の課題がきっかけとなり、今後は「チェコスロバキア」だけでなく、「チェコ」、「チェコ人」および「チェコの」など語のスペルを正しく書くことができそうです。

K. K.

2011年5月15日

2011年4月 362号

今回話題になっている東フリースランド地方は、日本人である私には余りなじみがない地方ですが、貝やカニなどの魚介類（日本の貝やカニとは種類が異なるのだと思いますが）とお茶（日本で多く飲まれるのが緑茶であるのに対し、この地方で多く飲まれるのが紅茶であるという違いがありますが）という共通点があることに興味がわきました。

特にこの地方にも Teezeremonie があることには驚きました。もちろん日本の「茶の湯」とは全く異なる作法ですが、紅茶が多く飲まれる地方であることから、その紅茶の飲み方に関しても独自に発達して来たものと想像されます。

音を立ててコーヒーや紅茶を飲むことは、欧米のみならず、日本においてさえマナー違反とされる中で、この地方では、紅茶カップに入っている三層になった紅茶（上の層のクリーム、中間層の苦めの紅茶、一番下の層の溶けた角砂糖の甘み）をそれぞれ味わうために、敢えてスプーンでかき混ぜることなく、上から音をたててすすむというのですから、不思議な飲み方もあるものだと思います。今回のラジオ放送で紹介されていた様子を画像で確認しようと思い、インターネットをチェックしましたが、この地方で紅茶をどのように入れるかにつきましても、画像を見つけることができませんでしたが、飲み方については、見つけられませんでした。飲み方については、今後また、インターネットで調べてみようと思います。

K. K.

2011年6月23日

2011年5月 363号

デュセルドルフで勤務していた際には必要で車を運転しておりましたが、ここ20年来車を運転しない私としては、EU内でのCO₂排出量規制については余り関心がありませんでした。従いまして、今回話題になっている排気ガス規制（4年前に決定され2012年から「1キロメートル当たり120g」で実施される）も知りませんでした。また、ドイツでは自動車業界との妥協が図られ、「130g」となっているとのことですが、ヨーロッパ最大の自動車産業国としては、この10gの差が大きいのでしょうか。

また今回、エタノールとCO₂には2通りの綴りがあることも知りました。そして、その綴りを言う時の表現が、約40年前に私がドイツ語に初めて触れた際に先生の授業で習った“Ä” wie Ärger、“E” wie Emil、“I”wie Ida でしたので、当時を懐かしく思い出しました。これを当時のクラスメートが聞けば、私と同じ気持ちを抱くことでしょう。

私は、現在ゲーティンスティテュートでは、「ニュースのドイツ語」を受講しております。授業ではARDやZDFを見たり、ラジオ放送なども聴いています。担当のBrendel先生も熱心で、毎回 fakultative Hausaufgabe (schriftlich)として、kurze ZusammenfassungやKommentarを提出しています。

K. K.

2011年7月24日

2011年6月 364号

今回は、Bad Salzungen という町が紹介されていますが、私はこの町に関しては全く知識がありませんでした。

その名称から温泉と塩を連想させますが、なかなか興味深い町であると思います。以前の課題で、旧東ドイツのどこかの町に洞窟があり、その洞窟の中で呼吸することが呼吸器に障害を持つ人達の健康に役立つことを扱っていましたが、ここでは呼吸することに加えて、塩水を飲んだり、塩水の温泉に入ることにより人間の体に備わった自浄メカニズムを刺激するというのは興味深いことです。

また、かつて塩が貴重だった頃は、塩の争奪をめぐって戦争の原因になったのもうなずけます。その後塩が豊富に出回り、もはや貴重品ではなくなった頃にこの地方ではこの塩を利用した上記の健康法が発見されたというのも、なるほどと感心します。昨晚、日本のテレビでたまたまスイスアルプスの岩塩について放送しているのを見ましたが、これも何かの偶然でしょう。

さて、今回は、この練習問題に加え、時事独作文（「独外相が EU 外相候補に急浮上」）にも挑戦してみましたので、こちらのほうもよろしく願いたします。

K. K.